

平成29年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 古前 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生は、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	11.0	74	5.1	57	11.6	77	4.9	44
全国	11.2	75	5.2	58	11.8	79	5.1	46

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っている。 ・領域等では、書くことは全国平均正答率を上回っているが、読むこと、話すこと・聞くことは、全国平均正答率を下回っている。
	よくできた問題	手紙の構成を理解し、後付けを書く問題の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	目的に応じて、文章の中から必要な情報を見付けて読む問題の正答率が低かった。

国語B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っている。 ・評価の観点では、国語への関心・意欲・態度は、やや高いが、読む能力は、全国平均正答率を下回っている。
	よくできた問題	物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる問題の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える問題の正答率が低かった。

算数A	全体的な傾向や特徴など	・どの領域においても、全国平均正答率をやや下回っている。 ・基礎・基本の徹底を図るため、少人数指導を第5学年から行っていて、個に応じて指導をしたことで全国平均正答率に近付いていると考えられる。
	よくできた問題	高さが等しい平行四辺形と三角形について、底辺と面積の関係を理解する問題の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	資料から、二次元表の合計欄に入る数を求める問題の正答率が低かった。

算数B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っている。 ・特に、「数と計算」領域、「数量関係」領域が全国平均正答率を下回っている。
	よくできた問題	仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を記述する問題の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	料金の差を求めるために、示された資料から必要な数値を選び、その求め方と考えを記述する問題の正答率が低かった。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていて、それを通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う児童の割合は全国の児童数の割合より高い。今後も、話し合いの内容や方法について校内研究を通して深めていき、さらなる充実を図る。 ・読書習慣が身に付いている。今後も、国語科「読むこと」領域の学習指導において、並行読書を推進していく。 ・自尊感情が低い。一人一人のよさを見付けてほめる取組を学校だけでなく、家庭にも啓発していくことを通して高めていく。 ・家で、自分で計画を立てて勉強をしたり、普段の勉強時間が1時間以上であったりする児童の割合は全国の児童数の割合より低い。宿題を見直したり、自主学習がよくできている児童の例を掲示したりして増やしていく。 ・普段のテレビゲームをする時間が1時間以上である児童の割合は全国の児童数の割合より高い。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> ○ 「古前小 授業改善シート」の効果的な活用 ○ 学力定着サポート問題の活用 ○ 「話し合い活動の古前スタンダード」の活用 ○ 朝の活動(音読タイム、計算スキル、視写・漢字タイム、ぐんぐんタイム読書タイム)の確実な実施
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ○ 学年×10分間の家庭学習の目標達成 ○ よい自主学習ノートの掲示と評価 ○ 「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用
--